

## パネルディスカッションを始める前に

モデレーター：広島大学 総合科学部 教授 佐野 真理子 氏

今日のパネルディスカッションで、モデレーターを務めさせていただきます。よろしくお願いします。社会が求めるアクセシビリティですが、この「アクセシビリティ」という概念は、皆様にとってはなじみが深いので、ここで改めて紹介する必要はないかとは思いますが、「アクセシビリティ」とはアクセスしやすいこと、使いやすさ、情報の得やすさを総括した概念です。製品、サービスや、環境に対しても使える言葉です。

昨日からこのフォーラムに参加して、目立ったキーワードは、「多様性」「diversity」で、その重要性が繰り返し言われています。今の世の中は、多様な人々が社会参画していることは、喜ばしいことです。以前は男性中心社会だったのが、女性が活躍する、高齢者や、リタイアされた方がどんどん、進学し、就業していくというように、いろいろな人が社会で活躍していく状況です。しかし、様々な人が社会参画するにあたり、社会全体を見渡すと、まだまだいろいろなものが使いにくい、分かりにくい、暮らしにくいといった側面がたくさんあると思います。ところで、我が国が直面している問題は、非常に緊急度が高いことが、一方ではあります。非常なスピードで少子高齢化が進み、支えられる側と支える側が、バランスがだんだんと崩れていくのではないかという問題があります。今や、日本だけで存在するわけではなく、グローバル化の影響で、沢山の国の人達が行き来するわけですが、自分の国では車椅子で公共交通機関へのアクセスできたのが、日本に来た途端、駅には沢山の階段があるといったことがあります。つまり、ある一定の基準で暮らしてきた人が、別の社会ではその基準が満たされないことがあります。また、IT技術がアクセシビリティにとって、非常に大きな解決方法になる時代ですが、そのITについても、アクセスできる人とできない人があり、つまり、デジタルデバイドの問題が生じています。現在ほど、社会全体がアクセシブルになることが、これほど、緊急な課題として注目されてきた時代は、ないのではないのでしょうか。今日のパネルディスカッションでは、社会をアクセシブルなものにするということで、行政、企業、大学などの教育機関、NPO 法人が、様々な取組をされています。ところが、お互いに何をやっているのか、よく分からない、「隣は何をする人ぞ」というところがたくさんあります。皆さんの活動の情報すら、アクセシブルではないというのが現状ではないかと思えます。そこで、このパネルディスカッションでは、まずこの分野で先駆的な取り組みをされている方々に、順番に、アクセシブルな社会にするためのビジョンと、それに対して、どういう取り組みを現在行っているのか、また、その中で、どういう課題、問題点が生じているのかについて、1人20分くらいで、まずご紹介していただきます。次に、どんな取り組みであっても、ある会社なり、組織だけが単独で行っているの

は、限界があります。各分野の方々が、連携を取れるコラボレーションが重要な課題になります。まず、取組を知り、その内容を踏まえて、後半には、コラボレーションのあり方を探っていきたいと思います。このように、パネルディスカッションを進めさせていただきます。